

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子西五反田保育園
施設所在地	東京都品川区西五反田7-19-1 五反田高木ビル2F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然(宇宙)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

元々空に興味をもつ子が多かった。七夕の天の川調べから少しずつ星や宇宙などに興味に変化。お仕事をすることで星がもらえ、星を100個貯めたことで宇宙関係の本や図鑑を購入。図鑑を買ったことで友達と自由時間に読んで楽しむことが増え、すい星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星を自主的に調べていた。

2. 活動スケジュール

【これまでの流れ～星集めプロジェクト～】

宇宙への興味から調べる為には図鑑や材料が必要になりますが、「お金（対価）がない」という壁に直面。「誰かを喜ばせて『星』をもらおう」という今年度から始まった子ども事業部の活動とリンクします。園内スタッフへの手伝いは無いかと売り込み、年下の子の寝かしつけなど、各自が個性を活かした喜ばせる活動に奔走。対価として100個の星を集め、それを原稿作成やリサーチの糧、TeNQへ遠足に変えていきました。

【TeNQへ遠足にでかける】

10月4日

TeNQへ遠足に出かけ、宇宙について知る。

【惑星を制作する】

11月

TeNQで見たことを他の子どもたちにも伝えたいという意見が子ども会議で出て、制作物や担当する惑星を決めた。制作物が決まったあとは、何で作るか、何が必要か決めた。風船と新聞紙で張り子制作を行う。

12月

張り子に絵の具で着色し、自分の担当の惑星を作成。

様々な色の折り紙で星を作った。完成した星は黒ビニールに図鑑で見た星の位置になるように配置して貼り、オリジナルの天の川を作成。星を貼った黒ビニールや張り子で作った惑星をクラスに展示。

【オリジナルランタンを作る】

1月

プラネタリウムを作るにあたり、光が必要ということに気づく。暗いところを広く照らすための実験としてランタン作りをする。ペットボトルに色を塗り、オリジナルランタンを作成し、水の量を調整すると水の動きも一緒に照らされることに気づき、夜空の星をイメージした。段ボールに図鑑を見ながら、絵の具にラメを入れて、すい星と銀河を描いた。自分の担当する天体について再度調べ直し、説明する文章を考える。全クラス・全スタッフに宛てた招待状の作成。全クラス・全スタッフに招待状配布。

【宇宙探検を開催】

1月30日

宇宙探検を開催。0歳児・2歳児・4歳児を招待し、受付・案内・紹介を行った。自分の担当の惑星を紹介したあとは、全員のシートに星のシールに貼った。案内終了後はシートをチェックして、サインを書き、お土産を渡した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

宇宙関係の本や図鑑を購入し、宇宙について調べる活動を行う。

家庭用プラネタリウムを購入し、プラネタリウムのイメージを膨らませた。

TeNQに出掛け、宇宙について興味をもつ。

貸し切りバスの手配・高速道路利用代（往復）・駐車場代・TeNQ入館料

子どもたちとの話し合いの中で必要なもの・買わないとないものを決めた。

・キラキラの折り紙やアルミホイル等（・ホログラムデザインペーパー・ホイルカラー折り紙・パステルバルーン・アルミホイル・マイクロ繊維の手芸わた）を使い、惑星や星を作成。

・黒ビニールゴミ袋に完成した星を貼り、オリジナルの天の川を作成。

・子どもたちが作ったペットボトルランタンを下から照らすためのライトと電池を購入。

・キラキラしているイメージの宇宙や星を作りたいことでラメを購入。

・天井装飾用蓄光シール ウォールステッカー 星

・UVレジン用封入パーツ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<p>1. 【探究の出発点】</p> <p>未知の世界「宇宙」への好奇心とイメージの共有 TeNQへの遠足で本物の宇宙の映像や展示に触れたことで、子どもたちの中に「宇宙ってどんなところ?」、「星はどうなっているの?」という問いが生まれました。帰園後、子ども会議を開くと「自分たちの宇宙を作りたい」という意欲が湧き上がり、図鑑を広げて惑星の配置を調べたり、制作に必要な材料（風船、新聞紙、のりなど）を自分たちでリストアップしたりと、探究の土台となる計画を自ら立てる姿が見られました。</p>
<p>2. 【試行錯誤と表現の深化】</p> <p>質感と構造へのこだわり（張り子と色彩の探究）惑星の丸みを出すために「風船に新聞紙を貼る（張り子）」という手法に挑戦しました。最初は新聞紙が浮いてしまう難しさもありましたが、子ども同士で「もっとのりをたくさん塗るとくっつくよ」と教え合う姿が見られました。また、着色の段階では、図鑑の写真をじっくり観察し、「火星はもっと赤いけど、少し茶色も混ざっている」、「銀河にはキラキラが必要」と、絵の具にラメを混ぜたり、折り紙で天の川を再現したりするなど、自分のイメージを形にするための試行錯誤を重ねました。</p>
<p>3. 【対話による環境構成】</p> <p>「見せる」から「伝える・楽しませる」空間へ完成した惑星やランタンをクラスに展示する中で、「他の子にも見てほしい」という欲求が芽生えました。単に飾るだけでなく、彗星や銀河を描いた段ボールを配置し、部屋全体を宇宙空間に作り替えました。さらに、自分の担当する惑星について図鑑で再調査し、「どうすれば分かりやすく伝えられるか」を考え、説明文を作成。招待状を全クラスに配布するなど、自分たちの探究の成果を「他者と共有する」ための準備を主体的に進めました。</p>
<p>4. 【実践と振り返りを通じた再構築】</p> <p>「宇宙探検」の実施と質の向上 1回目の「宇宙探検」では、年下の子や年上の子を招待し、受付や案内を実践しました。終了後、欠席していた友だちを交えて振り返りを行い、「案内が少し難しかった」「シールの渡し方をこうしよう」といった具体的な課題を共有。この「振り返り」を経て、2回目の開催では、1歳児や3歳児の目線に合わせた紹介の仕方に工夫を加えるなど、実践を通じて学びをより確かなものへと深めていきました。</p>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

<ul style="list-style-type: none">・図鑑で調べる時に「これはどういう意味なの?」と保育者に聞いたり、他の本と比べたりしながら理解を深める姿が見られた。・TeNQでは展示されているものやゲームに興味をもち、見たり触れたりする中で宇宙について知ることが出来た。製作コーナーのような場所があったことで作りたいものをイメージしたり、さらに宇宙のことを調べてみようとしたりしていた。・TeNQに出掛けたあとからは、複数回子ども会議を行い、どんなものを作りたいかどんな場所にしたいかなどを話し合った。話し合う中で友達と意見が合わないこともあったが、お互い気持ちや考えを伝え合い、受け止める姿が見られた。・制作物を作っている時は分からないところや苦戦しているところは友だちと一緒に協力しながら作ることを楽しむ姿が見られた。・惑星の色付けでは、図鑑を再度見直して、必要な色を考えた。絵の具などの単色でないことで苦戦していたが、保育者や友達と一緒に色を混ぜたり、重ねたりすることで近づけることが出来ていた。・オリジナルの天の川や惑星の飾りつけを行うと、他クラスの子たちも「これなに?」「どうやって作ったの?」と興味をもち、教えてあげる姿が見られた。・宇宙探検は日にちが決まったことでやる気が出て、積極的に必要なものを準備していた。・宇宙探検初日は2名欠席になってしまったことで、保育者も参加して案内を行った。初めてのことで順路で混乱したり、伝えることを忘れてしまったりすることがあったが、来てくれた他クラスの年齢に合った対応を考えて、手を繋いでリードしてあげたり、「こっちだよ」などと声を掛けて目線を誘導したりする姿が見られた。・宇宙探検の様子を振り返り、後日休んでいた子たちに共有し、難しかったところやよかったところを話し合った。・宇宙探検2日目は全員そろっていたことで自分の担当で動くことが出来た。初日の様子から改善するところを決めたため、友だちにも声を掛け合いながら案内する姿が見られた。
--



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

最初はクラスの数人しか興味をもっていなかったが、七夕の天の川調べから次々興味をもって調べようとする姿が見られた。TeNQに出掛けたことで友達と一緒に楽しみながら宇宙について調べる姿が見られ、分からないところは教え合ったり、友だちと違う本で見比べたりしながら協力することが増えた。宇宙探検当日は保育者が入らなくても子どもたちでほとんど進めることができ、他クラスをリードすることも出来ていた。乳児との関わりが普段は少ないが、率先して手を繋いであげたり、「こっちにおいで」、「見てみて!」、「次はなにかな?」と楽しめるような声かけをしたりする姿が見られた。幼児クラスは紹介した惑星をシールラリーの台紙で探すように声をかけ、乳児とは異なる対応をすることが出来ていた。

この活動を通して、興味をもったことを詳しく調べること、友達と協力すること、人前に出て話すことなど多くのことを学ぶことが出来た。また、周りに認められることで自己肯定感を高め、自分に自信をもつ姿も見られるようになった。